



2022年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2022年2月8日

上場会社名 株式会社カネカ 上場取引所 東・名
 コード番号 4118 URL <https://www.kaneka.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 田中 稔
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 IR・広報部長 (氏名) 石田 修 (TEL) 03-5574-8090
 四半期報告書提出予定日 2022年2月10日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 有 (証券アナリスト・機関投資家向け)

(百万円未満切捨て)

1. 2022年3月期第3四半期の連結業績(2021年4月1日~2021年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年3月期第3四半期	508,716	20.7	33,317	92.7	31,288	147.7	22,021	128.0
2021年3月期第3四半期	421,484	△6.8	17,288	△8.5	12,632	△16.6	9,659	4.6

(注) 包括利益 2022年3月期第3四半期 27,345百万円(65.7%) 2021年3月期第3四半期 16,505百万円(60.8%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2022年3月期第3四半期	337.55	336.63
2021年3月期第3四半期	148.08	147.75

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2022年3月期第3四半期	712,554	401,691	52.9
2021年3月期	667,429	381,040	53.5

(参考) 自己資本 2022年3月期第3四半期 377,173百万円 2021年3月期 357,098百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2021年3月期	—	50.00	—	50.00	100.00
2022年3月期	—	50.00	—	—	—
2022年3月期(予想)	—	—	—	60.00	110.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 有

3. 2022年3月期の連結業績予想(2021年4月1日~2022年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	685,000	18.6	43,500	57.9	40,000	81.3	26,000	64.2	398.53

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無

(注) 詳細は、添付資料10ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 (会計方針の変更)」をご覧ください。

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	2022年3月期3Q	68,000,000株	2021年3月期	68,000,000株
② 期末自己株式数	2022年3月期3Q	2,761,142株	2021年3月期	2,762,766株
③ 期中平均株式数 (四半期累計)	2022年3月期3Q	65,239,177株	2021年3月期3Q	65,232,621株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

- ・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料4ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

- ・当社は、2022年2月8日に、機関投資家及び証券アナリスト向けの決算説明会を電話にて開催する予定です。

【添付資料】

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(会計方針の変更)	10
(セグメント情報等)	11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

➤ **世界経済の状況**

当第3四半期累計期間（2021年4月～12月、以下3Q累計）の世界経済は、コロナワクチンの接種が進み、各国の感染対策の緩和や経済・金融政策の効果もあって回復基調となりました。しかしながら、半導体などの部品や資材不足、ロジスティクスの混乱や資源・エネルギー価格の高騰は継続し、コロナ感染の再拡大による生産活動への影響や物価の上昇など、不透明な事業環境が続いています。

➤ **当社グループの業績**

このような状況のなか、当社グループの3Q累計の連結業績は、売上高508,716百万円（前年同期比20.7%増）、営業利益33,317百万円（前年同期比92.7%増）、経常利益31,288百万円（前年同期比147.7%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益22,021百万円（前年同期比128.0%増）と大幅な増収増益となりました。

2022年3月期 第3四半期 連結業績（単位：百万円）

	2021年3月期 3Q累計	2022年3月期 3Q累計	前年同期比
売上高	421,484	508,716	87,232 (20.7%)
営業利益	17,288	33,317	16,029 (92.7%)
経常利益	12,632	31,288	18,656 (147.7%)
親会社株主に帰属する 四半期純利益	9,659	22,021	12,361 (128.0%)

セグメント別売上高・営業利益

（単位：百万円）

	売上高									
	2021年3月期				2022年3月期				増減	
	1Q	2Q	3Q	累計	1Q	2Q	3Q	累計	3Q	3Q累計
Material SU	48,894	55,587	60,240	164,722	69,967	70,922	76,347	217,237	16,107 (26.7%)	52,515 (31.9%)
Quality of Life SU	29,738	33,924	39,159	102,823	40,856	41,878	43,403	126,138	4,243 (10.8%)	23,315 (22.7%)
Health Care SU	11,698	12,756	14,068	38,522	13,220	13,397	15,402	42,020	1,334 (9.5%)	3,497 (9.1%)
Nutrition SU	35,938	37,560	41,062	114,561	39,753	39,725	43,054	122,533	1,991 (4.9%)	7,972 (7.0%)
その他	373	241	238	853	308	236	240	785	2 (1.0%)	△68 (△8.0%)
計	126,644	140,069	154,769	421,484	164,106	166,160	178,449	508,716	23,679 (15.3%)	87,232 (20.7%)

	営業利益									
	2021年3月期				2022年3月期				増減	
	1Q	2Q	3Q	累計	1Q	2Q	3Q	累計	3Q	3Q累計
Material SU	2,855	4,518	6,465	13,839	9,311	8,652	8,303	26,267	1,838 (28.4%)	12,428 (89.8%)
Quality of Life SU	1,236	2,692	4,439	8,369	4,586	4,737	4,460	13,784	20 (0.5%)	5,415 (64.7%)
Health Care SU	2,298	2,672	3,213	8,183	2,310	2,941	3,168	8,420	△44 (△1.4%)	236 (2.9%)
Nutrition SU	827	605	1,882	3,314	1,429	656	1,562	3,648	△319 (△17.0%)	333 (10.1%)
その他	248	92	98	439	177	73	98	349	0 (0.6%)	△89 (△20.4%)
調整額	△5,436	△5,576	△5,844	△16,857	△5,967	△5,894	△7,291	△19,152	△1,446 (-)	△2,295 (-)
計	2,029	5,005	10,253	17,288	11,848	11,167	10,301	33,317	48 (0.5%)	16,029 (92.7%)

3Q累計では、すべての事業セグメントで増収増益となりました。また、3Q（10～12月）の売上高は過去最高を更新し、営業利益は5四半期連続で100億円を超える水準となりました。

先端事業群では、Health Care SUのバイオロジクス設備能力増強によるコロナワクチン受託製造や変異株PCR検査キット・検査試薬の販売拡大など新型コロナウイルス対策が業績に寄与しました。Medicalの血液浄化事業も新製品の市場評価が高く、着実に販売が拡大しています。

また、デジタルコミュニケーションの活用が世界で一気に拡大する中、E&IのスマートフォンやPC向けポリイミド製品、大型TV向けアクリルフィルム用樹脂の販売が大きく伸びています。

PVではZEH・ZEBの普及をはじめカーボンニュートラル実現に向けた再生可能エネルギー利用拡大への取り組みが加速し販売が増加しています。

一方、コア事業であるMaterial SUのVinyls・MOD・MSやFiberは、グローバルネットワークを活かし、海外での旺盛な需要に着実に応えて好調な販売を継続し、大幅な増収増益となり収益基盤を強化しました。事業ポートフォリオの変革が着実に進んでいます。

今般、事業ポートフォリオの変革をさらに加速する先端事業、新規事業の大型設備投資を決定しました。

① 生分解性ポリマー (Green Planet) の大型能力増強

(投資金額約150億円、15,000トン/年 2024年1月稼働)

Green Planetは、植物油を原料に微生物によって生産されるバイオポリマーで、土壌中だけでなく海水中でも容易に分解する生分解性を有しています。一方で、プラスチックと同様の機能を持ち、使い捨てプラスチックによる環境破壊に対し画期的なソリューションを提供できる素材です。発酵・培養からポリマー生産に関わる幅広いコア技術を有する当社だからこそ社会実装を実現できました。

Green Planetで置き換え可能な使い捨て汎用プラスチック製品は、世界で年間約2,500万トンと推定され、Green Planetの普及が社会の仕組みそのものを変える可能性を秘めています。

今回の能力増強をスタートとして、地産地消の方針のもと、需要が大きく広がる世界各地での増設を順次進めます。

Green Planetの用途は多岐に亘り、今後も益々拡大していきます。本設備は、新しい用途の新製品開発や革新的な技術開発による生産性の向上、コストダウンを進める実験・実証的生産が行える設備としてデザインしました。次期増設に活かしてまいります。

② 北海道における医療機器工場新設 (投資金額約100億円、2024年5月稼働)

北海道・苫小牧東地区に事業用地を取得し、ITやAI技術の結集により自動化・高度化した最新鋭の医療機器工場の新設を決定しました。

血中の悪玉コレステロールを選択的に除去する製品や、重症化した閉塞性動脈硬化症の新たな治療法として市場から高い評価を受けている製品を生産します。これらは、患者数の多い米国や中国で今後需要の急拡大が見込まれます。新工場建設による供給基盤の確保により、飛躍的な事業拡大を図ります。

この事業用地には、当社太陽電池を設置し「ゼロエネルギーファクトリー」を目指します。

また、Medical領域以外の事業拠点としても積極的に活用してまいります。

当社が「New Frontier」と位置付ける北海道で、昨年別の海町での有機酪農の取り組み開始に続く、「Hokkaido Initiative」の始動です。

「北海道から世界を健康にする」当社の新たな挑戦がスタートしました。

※ コア事業 (Core) … Vinyls and Chlor-Alkali, Performance Polymers, Foam & Residential Techs, Performance Fibers, Foods
先端事業 (Leading Edge) … E & I Technology, Pharma, Medical, Supplemental Nutrition, Agris, PV & Energy management

各セグメントの状況は次のとおりです。

① Material Solutions Unit

- Vinylsは、PVCを主体にインドなどアジア市場の旺盛な需要が続いており、苛性ソーダも海外市況が上昇しました。
- MODは、欧米の需要が好調に推移しています。特に、非塩ビ用途（自動車、PC・家電向け）の販売がグローバルに拡大しています。グローバル4拠点を持つ供給体制の強みが力を発揮し、ビジネ

スモデルとして差別化力が効果を生んでいます。

- MSは、欧米に加えニューフロンティア・アジアの建築用途などの需要が順調に拡大。旺盛な需要増が予見されることから次期能力増強の検討を進めています。
- 生分解性ポリマー「Green Planet」は、世界中から引き合いが集まり、新規採用が広がっています。環境負荷低減に関心の高い世界中のブランドホルダーとの大型共同開発が進展しています。

② Quality of Life Solutions Unit

- Foamのスチレン系発泡樹脂、押出し発泡ボードは、販売は堅調に推移しました。原材料高騰の影響を強く受けました。発泡ポリオレフィン、世界的な自動車減産が続くなか需要回復が遅れています。
- PVは、国策としての再生可能エネルギーのニーズが呼び水となり販売が拡大しました。ZEBを志向したビル建物（壁・窓・屋根）への需要も加速しています。
- E&Iは、スマートフォンや有機ELディスプレイ用のポリイミド製品、大型TV向けのアクリルフィルム用樹脂の販売が好調に推移しました。
- Fiberは、アフリカ向け頭髮製品の旺盛な需要が継続し、難燃資材向けの需要も回復しつつあります。リサイクル性を有するエコファー向け新製品が注目を集めるなど、拡大需要に対応するため、さらなる能力増強を検討してまいります。

③ Health Care Solutions Unit

- Medicalは、コロナ禍の影響で減速していた一般治療の症例数が回復しています。血液浄化器ではASO治療用の新製品の販売が大幅に増加し、カテーテルでは脳動脈瘤塞栓コイルなど海外向けを中心に販売が拡大しました。1月にはオミクロン型とデルタ型を同時に識別するPCR検査キットを販売し、感染拡大の防止に貢献しています。北海道新工場の早期の戦力化により医療器事業のグローバル展開を加速いたします。
- Pharmaは、バイオ医薬品では、カネカユーロジェンテック増設ラインでのコロナワクチンの受託製造がスタートし業績に貢献しています。研究試薬・検査診断サービスも順調に推移し、低分子医薬品も新規案件を獲得するなど、さらなる業績拡大を目指します。

④ Nutrition Solutions Unit

- Supplementは、「免疫力アップ」意識の高まりを背景に、還元型コエンザイムQ10の販売が好調に推移しました。国内では「わたしのチカラ」還元型コエンザイムQ10配合シリーズが新たな機能性表示を取得し、商品のラインナップを強化しています。乳酸菌事業では、市場認知が進み米国でリピートオーダーが増加しており、生産体制の強化を進めます。
- Foods & Agrisは、需要は緩やかに回復していますが、油脂等原料価格の大幅上昇の影響を強く受けています。新たにスタートしたモール型ECサイト「ぱん結び」はメディア戦略が奏功し、会員数が増加しています。ECサイトやSNSも活用しBtoCビジネスを強化してまいります。また有機酪農を通じてサステナブル社会に貢献し、パン業界や乳業の活性化に取り組んでまいります。

(2) 財政状態に関する説明

2021年12月末の総資産は、売掛金や棚卸資産の増加等により、2021年3月末に対して45,124百万円増の712,554百万円となりました。負債は、買掛金の増加等により24,473百万円増の310,862百万円となりました。また、純資産は、利益剰余金の増加等により20,651百万円増の401,691百万円となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

- IMFは1月、2022年の世界GDP成長率を4.4%とし、2021年の5.9%から大きく減速すると見込んでいます。インフレが進行する米国やコロナ対策を優先する中国の景気減速が予想され、ロシア・東欧・東アジアや中近東の地政学的リスクも懸念されます。
- このような状況下、先端事業群においては、Green Planet計画やHealth Care領域に加え、E&I、PVなどエレクトロニクス領域のR&B活動を積極的に強化し、「世界を健康にする」健康経営に注力してまいります。またコア事業群では、旺盛な海外需要に応えるべく世界をカバーするネットワークの力を発揮させ、変化する外部環境を跳ね返す強靱な収益力を強化してまいります。ポートフォリ

オの変革をさらに進めます。

- これらの状況を踏まえて、2021年11月9日公表の連結業績予想を上方修正いたします。
 また、これに伴い2022年3月期の1株当たり年間配当予想を前回予想より10円増額して110円といたします。
 詳細は本日公表しました「2022年3月期（第98期）配当予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

当期の連結業績予想数値の修正（2021年4月1日～2022年3月31日）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり当期純利益
前回発表予想（A）	百万円 660,000	百万円 42,000	百万円 36,500	百万円 24,000	円 銭 367.88
今回修正予想（B）	685,000	43,500	40,000	26,000	398.53
増減額（B－A）	25,000	1,500	3,500	2,000	
増減率（％）	3.8	3.6	9.6	8.3	
（参考）前期連結実績 （2021年3月期）	577,426	27,544	22,066	15,831	242.68

セグメント別業績予想

（単位：百万円）

	売上高			営業利益		
	前回予想	今回修正予想	増減	前回予想	今回修正予想	増減
Material SU	273,000	295,000	22,000 (8.1%)	31,000	34,000	3,000 (9.7%)
Quality of Life SU	168,000	168,000	- (-)	17,000	17,000	- (-)
Health Care SU	61,000	61,000	- (-)	13,500	13,500	- (-)
Nutrition SU	157,000	160,000	3,000 (1.9%)	5,500	5,000	△ 500 (△9.1%)
その他	1,000	1,000	- (-)	500	500	- (-)
調整額	-	-	-	△ 25,500	△ 26,500	△ 1,000 (-)
計	660,000	685,000	25,000 (3.8%)	42,000	43,500	1,500 (3.6%)

第4四半期の為替レート及び原料価格については、米ドルは113円、ユーロは130円、国産ナフサ価格は61,000円/KLを想定しております。

※ 上記の予想は、現時点において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因により予想数値と異なる場合があります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2021年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	47,716	42,793
受取手形及び売掛金	135,618	—
受取手形、売掛金及び契約資産	—	158,562
有価証券	205	209
商品及び製品	54,161	69,036
仕掛品	9,198	10,702
原材料及び貯蔵品	46,325	56,228
その他	17,221	20,146
貸倒引当金	△1,423	△1,379
流動資産合計	309,024	356,298
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	91,295	91,515
機械装置及び運搬具（純額）	112,593	110,899
その他（純額）	65,274	65,268
有形固定資産合計	269,164	267,684
無形固定資産		
のれん	2,948	2,569
その他	10,881	11,541
無形固定資産合計	13,829	14,111
投資その他の資産		
投資有価証券	57,917	58,776
その他	17,723	15,927
貸倒引当金	△229	△242
投資その他の資産合計	75,411	74,460
固定資産合計	358,405	356,256
資産合計	667,429	712,554

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2021年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	75,757	101,788
短期借入金	84,181	80,923
未払法人税等	4,376	2,204
引当金	111	6
その他	47,875	47,650
流動負債合計	212,303	232,573
固定負債		
社債	10,000	10,000
長期借入金	25,161	28,759
引当金	314	285
退職給付に係る負債	32,073	31,805
その他	6,536	7,438
固定負債合計	74,085	78,288
負債合計	286,389	310,862
純資産の部		
株主資本		
資本金	33,046	33,046
資本剰余金	31,103	31,546
利益剰余金	289,544	305,041
自己株式	△11,535	△11,528
株主資本合計	342,159	358,106
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	20,863	21,358
繰延ヘッジ損益	△9	△20
為替換算調整勘定	△3,753	△728
退職給付に係る調整累計額	△2,160	△1,542
その他の包括利益累計額合計	14,939	19,067
新株予約権	516	615
非支配株主持分	23,424	23,901
純資産合計	381,040	401,691
負債純資産合計	667,429	712,554

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2020年4月1日 至2020年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2021年4月1日 至2021年12月31日)
売上高	421,484	508,716
売上原価	301,492	362,443
売上総利益	119,991	146,273
販売費及び一般管理費	102,703	112,955
営業利益	17,288	33,317
営業外収益		
受取配当金	1,287	1,401
為替差益	—	195
持分法による投資利益	81	105
その他	588	675
営業外収益合計	1,957	2,378
営業外費用		
支払利息	985	792
固定資産除却損	1,557	951
為替差損	601	—
その他	3,467	2,662
営業外費用合計	6,612	4,406
経常利益	12,632	31,288
特別利益		
受取損害賠償金	1,624	—
特別利益合計	1,624	—
特別損失		
訴訟関連費用	233	—
特別損失合計	233	—
税金等調整前四半期純利益	14,023	31,288
法人税、住民税及び事業税	3,495	6,163
法人税等調整額	△80	1,991
法人税等合計	3,414	8,154
四半期純利益	10,609	23,134
非支配株主に帰属する四半期純利益	949	1,112
親会社株主に帰属する四半期純利益	9,659	22,021

四半期連結包括利益計算書
第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)
四半期純利益	10,609	23,134
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	4,058	469
繰延ヘッジ損益	50	△11
為替換算調整勘定	679	3,137
退職給付に係る調整額	1,099	620
持分法適用会社に対する持分相当額	9	△4
その他の包括利益合計	5,896	4,211
四半期包括利益	16,505	27,345
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	15,343	26,149
非支配株主に係る四半期包括利益	1,162	1,196

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業的前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することとしております。なお、「収益認識に関する会計基準の適用指針」第98項に定める代替的な取扱いを適用し、商品又は製品の国内の販売において、出荷時から当該商品又は製品の支配が顧客に移転される時までの期間が通常の間である場合には、出荷時に収益を認識しております。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っており、第1四半期連結会計期間の期首より前に新たな会計方針を遡及適用した場合の累積的影響額を、第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金に加減し、当該期首残高から新たな会計方針を適用しております。なお、当第3四半期連結累計期間の損益に与える影響は軽微であり、利益剰余金の当期首残高に与える影響はありません。

収益認識会計基準等を適用したため、前連結会計年度の連結貸借対照表において、「流動資産」に表示していた「受取手形及び売掛金」は、第1四半期連結会計期間より「受取手形、売掛金及び契約資産」に含めて表示することとしました。なお、収益認識会計基準第89-2項に定める経過的な取扱いに従って、前連結会計年度について新たな表示方法により組替えを行っておりません。

(時価の算定に関する会計基準等の適用)

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 2019年7月4日)第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することとしております。なお、四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント					その他 (注) 1	合計	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	Material Solutions Unit	Quality of Life Solutions Unit	Health Care Solutions Unit	Nutrition Solutions Unit	計				
売上高									
外部顧客への売上高	164,722	102,823	38,522	114,561	420,630	853	421,484	—	421,484
セグメント間の 内部売上高又は振替高	576	21	—	27	625	805	1,431	△1,431	—
計	165,298	102,845	38,522	114,589	421,256	1,659	422,915	△1,431	421,484
セグメント利益	13,839	8,369	8,183	3,314	33,706	439	34,146	△16,857	17,288

(注) 1 「その他」は、報告セグメントに含まれない損害保険・生命保険の代理業務等であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位：百万円)

利益	金額
報告セグメント計	33,706
「その他」の区分の利益	439
セグメント間取引消去	4
全社費用(注)	△16,885
その他の調整額	22
四半期連結損益計算書の営業利益	17,288

(注) 全社費用は主に特定の報告セグメントに帰属しない基礎的研究開発費であります。

Ⅱ 当第3四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：百万円)

	報告セグメント					その他 (注) 1	合計	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	Material Solutions Unit	Quality of Life Solutions Unit	Health Care Solutions Unit	Nutrition Solutions Unit	計				
売上高									
外部顧客への売上高	217,237	126,138	42,020	122,533	507,931	785	508,716	—	508,716
セグメント間の 内部売上高又は振替高	617	30	0	38	686	813	1,499	△1,499	—
計	217,854	126,169	42,020	122,572	508,617	1,598	510,215	△1,499	508,716
セグメント利益	26,267	13,784	8,420	3,648	52,120	349	52,470	△19,152	33,317

(注) 1 「その他」は、報告セグメントに含まれない損害保険・生命保険の代理業務等であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位：百万円)

利益	金額
報告セグメント計	52,120
「その他」の区分の利益	349
セグメント間取引消去	△8
全社費用(注)	△19,176
その他の調整額	31
四半期連結損益計算書の営業利益	33,317

(注) 全社費用は主に特定の報告セグメントに帰属しない基礎的研究開発費であります。